

いないことは明らかである。入浴の生理的効果として、拘縮の予防、二次感染の予防、全身状態の観察、身体の清潔などがあげられており。入浴は健康維持に大きな役割をもっている。

したがって、PMD患者の場合も、症状の許す限り入浴はさせた方がよい。ただ末期患者の場合、入浴が身体症状発現の引き金となり症状の悪化をみることがあるので、私達は日常の観察を充分行い、個々の患者の状態を把握し、医師との連絡をとりながら援助しなければならないと思う。

55 入浴に関する看護（入浴介助）

国立療養所刀根山病院

大久保 一枝	八 反 喜久子
国 広 泰美子	宮 田 美智子

国立療養所宇多野病院

佐 藤 茂 美	山名田 泰 伸
高 橋 貴代美	

国立療養所兵庫中央病院

大 谷 美智子	荒 木 エリ子
杭 原 節 子	原 田 敬 子
勝 田 勇 治	野 田 昭 代

宇多野、兵庫中央、刀根山の3施設は、入浴介助を担当してここに一応のまとめをした。手順としては、各々資料を持って参集し、3施設の入浴設備と入浴介助の状況を実際に見聞して検討を重ねた。

1. 入浴介助の必要度

介助の必要度は必ずしも障害度と一致するものではないが、目安としての基準表を作成した。横軸に障害度を縦軸に主な介助項目をとり、独自で行なわせるものに○、部分的介助を要するものに△、全介助を要するものに×で示すようにした。

障害度と介助の必要度

介助項目 \ 障害度	歩行可				四つばい	いざり	歩位保持可	ねたきり
	1	2	3	4	5	6	7	8
脱衣	○	○	△	△	△	△	×	×
体重測定	○	○	○	○	△	△	×	×
入浴中移動	○	○	○	○	△	△	×	×
浴槽内坐位保持	○	○	○	○	○	○	○	×
全身清拭	○	△	△	△	△	△	×	×
洗髪	○	△	△	×	×	×	×	×
着衣	○	○	△	△	△	△	×	×
移動	○	○	○	○	△	△	×	×

2. 入浴介助の方法

入浴介助の方法は、設備や用具等により変わってくると思うので、全施設の現行を調査することも考えたが、できる限り普遍的な方法を取りあげる必要があるので、3施設でいろいろな場合を想定し、これまでの経験に基づき検討した。その説明をわかりやすくするため、実際場面の写真を撮影し、入浴の流れに沿って、介助の方法、介助時の注意事項、観察処置、入浴環境について、それぞれ障害度と必要に応じて照合しながら一覧できるようにした。

入浴介助の方法

手順	障害度	介助	介助方法	介助時の注意事項	観察、測定、処置	環境
移動	1 4	独自	脱衣場へ1人で移動できる患者は独自で移動させる 写 真	転倒等の危険防止に留意する	一般状態、身体の変形状態	

3. その他特記事項

1. 入浴禁忌
2. 入浴の利点と欠点
3. 救急時の看護処置

についてとりあげ、入浴が及ぼす患者への影響、介助者への影響を調査した。

その他入浴介助を実際に行う場合の適当な人的条件を判定するため障害度6～8の場合の実験を試みた。結果患者1人に対する介助者は1.5人で1回の入浴で介助する患者は4人が限度であるように思える。介助は患者の状態によっても異なるが、手のかかり方は複雑にはなっても簡単になるということは考えられないのでこれを下廻らない程度の介助者人数が必要と思われる。

尚患者への影響として考えられるものには、不整脈、速脈の出現と血圧上昇と血圧下降の著しい者があった。

介助者への影響としては疲労感の他に、入浴介助開始時と終了直後に測定した体重が、所要時間1時間30分で平均400g～450g減少していた。

以上は、現有する設備の中で研究してまとめたものであるが、設備構造や環境が改善されることにより介助が容易になりもっとよりよい入浴看護が出来るように思える。

56 エレベーターバス導入後の考察 (油圧式ストレッチャーの導入を試みて)

国立新潟療養所 12病棟

五十嵐 節子	福島 ウメ
篠田 睦子	須田 紀美子
小山 ミナ子	星 千恵子
近藤 由美子	仲丸 ミス
山田 恵子	上野 ミツエ
伊原 君代	

〔はじめに〕

当病棟では患児の成長に伴い介助者の腰痛対策は必須で、50年11月よりエレベーターバスにより入浴方法の改善をはかって来た。しかしストレッチャーが高く介助しにくい。等の問題がありそ

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

宇多野、兵庫中央、刀根山の3施設は、入浴介助を担当してここに一応のまとめをした。手順としては、各々資料を持って参集し、3施設の入浴設備と入浴介助の状況を実際に見聞して検討を重ねた。